

柔道競技実施要項

1. 主催 大分工業高等専門学校
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
2. 主管 九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟柔道競技専門部
3. 後援 大分市、大分市教育委員会
4. 大会期日 令和6年7月13日(土)・・・団体試合
14日(日)・・・個人試合
5. 大会会場 大分スポーツ公園 レゾナック武道スポーツセンター レゾナック武道場
6. チーム人員 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。
ただし、個人試合においては、前記以外の選手を出場させることができる。

7. 競技規定

- (1) 「国際柔道連盟試合審判規定」による。
- (2) 「優勢勝ち」の判定基準について
 - ア 団体試合の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。なお、「僅差」は指導差2とする。
チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。代表戦における判定基準は「技有」又は「僅差」以上とし、その延長戦の判定基準は、個人試合に準ずる。
団体戦の代表戦以外の試合において、「同時一本」の場合は「引分」とし、「両者反則負」の場合は両者負けとする。
 - イ 個人試合の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。なお、「僅差」は指導差2とする。
技による評価が同等の場合は、延長戦(ゴールデンスコア)において勝敗を決する。
延長戦による判定基準は「技有」以上の得点、又は「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。
個人戦又は団体戦の代表戦において、「同時一本」もしくは累積による「両者反則負」の場合は、スコアをリセットし、延長戦(ゴールデンスコア)において勝敗を決する。また、延長戦において指導の累積により「両者反則負」となった場合には、スコアをリセットし、再度延長戦(ゴールデンスコア)を行い必ず勝敗を決する。
- (3) 関節技において、その効果があると認めたととき、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
- (4) 試合時間は、団体試合、個人試合とも4分とする。

8. 競技方法

- (1) 団体試合
 - ア 団体試合の組合せは、監督会議で抽選を行う。
 - イ 参加チームが6校以上の場合、参加チームを3ブロックに分け、予選リーグを行い、各1位の3チームにより決勝リーグを行う。
 - ウ 前年度の決勝リーグ戦の成績によって、第1位チームをAブロック、第2位チームをBブロック、3位チームをCブロックにシードする。参加チームが9チームに満たない場合、満たないチーム数をAブロック、Bブロック、Cブロックの中で1チームずつ減ずる。
 - エ 決勝は各ブロックの1位によるリーグ戦で行う。(組み合わせは抽選による。)
 - オ 試合は各チーム5名の点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。

カ リーグ戦の順位の決定は次による。

(ア) リーグ戦におけるチーム対チームの勝敗は次による。

- ① 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ② ①で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ③ ②で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ④ ③で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ⑤ ④で同等の場合は、引き分けとする。

(イ) リーグ戦の順位は、2勝・1勝1分・1勝1敗・2分・1分1敗・2敗の順とする。

- (ウ) (イ) で同等の場合は、リーグ戦を通じ勝ち数の多いチームを上位とする。
- (エ) (ウ) で勝ち数の同じ場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを上位とする。
- (オ) (エ) で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを上位とする。
- (カ) (オ) で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを上位とする。
- (キ) (カ) で同等の場合は、負け数の少ないチームを上位とする。
- (ク) (キ) で同等の場合は、「一本」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (ケ) (ク) で同等の場合は、「技有」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (コ) (ケ) で同数の場合は、「僅差」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (サ) (コ) で同等の場合は、代表戦を行う。

キ 参加チームが5チーム以下の場合、全参加チームの総当たり戦を行い、順位を決める。
この場合の順位は、カに準ずる。例えば、参加チームが5チームの場合の組合せは次のようにする。ただし、各試合で第Ⅰ試合場、第Ⅱ試合場を交互に使用する。また、同一チームの試合には10分以上の間隔が確保できるよう試合開始時刻を調整する。

第Ⅰ試合場	第Ⅱ試合場
1-2	(なし)
(なし)	3-4
5-1	(なし)
(なし)	2-3
4-5	(なし)
(なし)	1-3
2-4	(なし)
(なし)	3-5
1-4	(なし)
(なし)	2-5

(2) 個人試合

ア 【男子】

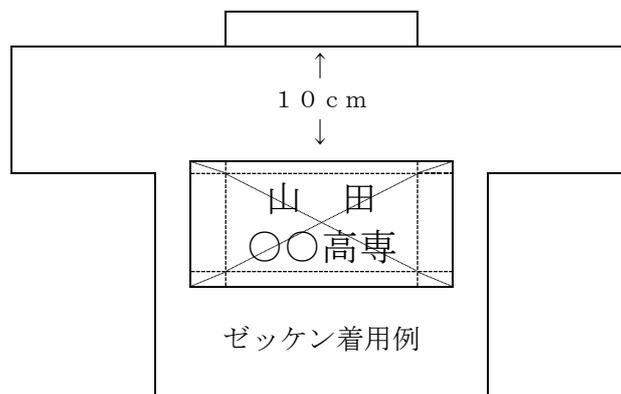
- (ア) 出場選手は、66kg級、73kg級、81kg級、無差別級ともに各校2名以内とする。
- (イ) 各級別にトーナメント戦とし、代表者決定戦も行う。
- (ウ) 個人試合の組合せは、監督会議で抽選を行う。
- (エ) 個人試合は、シード制を設ける。
- ① シードされるのは、前年度1位から3位の4人とする。
 - ② シード権があっても、階級を変えるとシード権は消える。
 - ③ 実際の組み合わせは、シードよりも同一校同士の対戦を避けることを優先する。
- (オ) 計量は、団体戦終了後に会場において厳正に行う。(計量の開始時刻は、監督会議において決定する。)
- 定められた時間内に計量を受けなかった者及び規定の計量に合格しなかった者は失格とする。

イ 【女子】

- (ア) 出場選手は、52kg級、57kg級、63kg級、無差別級ともに各校2名以内とする。
- 以下(イ)～(オ)については男子に同じ

9. 注意事項・その他

- (1) 競技が天候不調により中止になった場合の全国大会出場者の選出は、団体戦、個人戦、それぞれ出場する意思をメール等で確認し、その中から担当校が抽選により決める。抽選の様子はテレビ会議で放映する。
- (2) 団体試合におけるオーダー用紙の提出は、各試合とも開始 15 分前とする。オーダーは登録選手 7 名の枠内において各試合ごとに組替えてよい。ただし、定められた時刻までにオーダーの提出がなかった場合は、前試合と同じオーダーでもって試合を行わなければならない。また、連続して試合に出場する場合に限り、前試合終了後直ちに提出すればよいことにする。
- (3) エントリー変更は、不慮の事故、負傷のために出場できなくなった場合に、監督会議に申し出て承認を得るものとする。また、入学試験、就職試験、インターンシップ等の学生の不可抗力により出場できなくなった場合については、監督会議開催日の 1 週間前までに当番校に申し出を行うとともに、監督会議にて承認を得るものとする。なお、エントリーの変更にあたっては、医師又は学校長の証明を添付のうえ申し出を行うものとし、監督会議にて審議を行う。
- (4) 柔道衣コントロールは選手本人の責任で事前に行う。違反者は着替えることとする。
- (5) 選手は、上衣の左胸部にハガキ大 (10×15cm) の校名、背部に全日本柔道連盟規定のゼッケン (縦 25cm、横 32cm の白布地に姓・校名を横書きしたもの) をつける。



- (6) 全日本柔道連盟登録記録コピーを持参する。
- (7) 試合中の負傷については、大会本部で応急処置を施すが、その後の処置は当該校で行うこと。但し、脳振盪・皮膚真菌症 (トングランズ) に関しては次のとおりとする。

<脳振盪における扱い>

- ア 大会 1 ヶ月前に脳振盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
- イ 大会中、脳振盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。(なお、至急専門医 (脳神経外科) の精査を受けること)
- ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- エ 当該選手の指導者は、大会事務局 (公財) 全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

<皮膚真菌症 (トングランズ) における扱い>

皮膚真菌症 (トングランズ感染症) については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関に於いて、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。疑わしい場合には大会長に申告の上、指示を仰ぐこととする。

- (8) 大会参加に際して提供される個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。